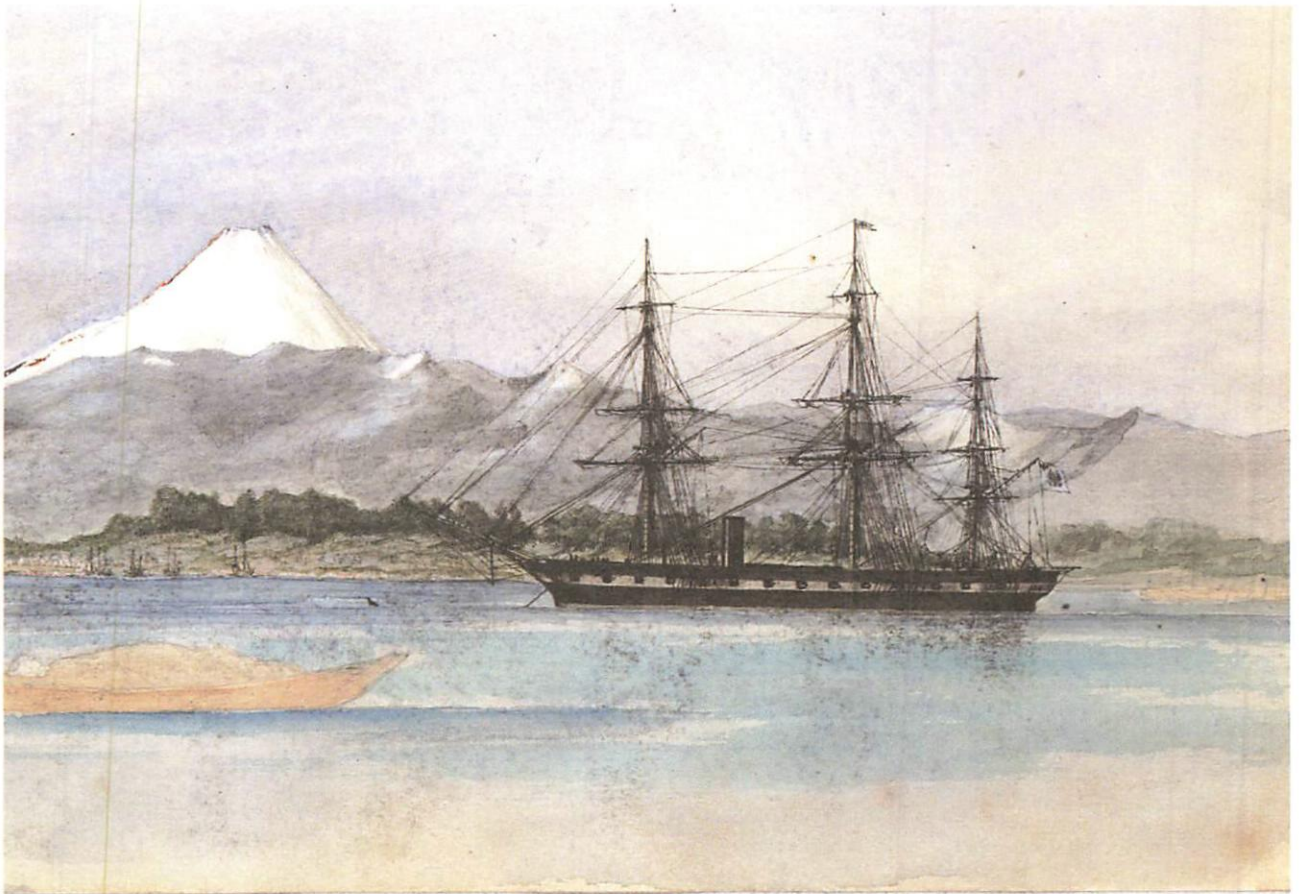


香川日独協会会報

Japanisch-Deutsche Gesellschaft

KAGAWA



第16号
Mai 2011

表表紙 横浜港に停泊する「アルコナ」号
カール・フォン・アイゼンデッヒャーによる水彩画
(ボン大学日本文化研究所蔵、トラウツコレクション)

裏表紙 江戸「日本橋付近」
アルベルト・ベルクによる水彩画
(天理大学附属天理図書館蔵)

香川日独協会会報

INHALT

創立20周年を記念して

挨拶	香川日独協会 会長	武部裕光	3
祝辞	在ドイツ日本国大使	神余隆博	4
祝辞	大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事	アレクサンダー・オルブリッヒ	6
祝辞	香川県知事	浜田恵造	8
祝辞	高松市長	大西秀人	10
祝辞	全国日独協会連合会会長	古森重隆	12
祝辞	ボン日独協会 会長	ディエルク・シュトゥッケンシュミット	14
祝辞	香川日独協会名誉会長	中村敏子	16
	香川日独協会20年の歩み		17

日独交流150周年を記念して

記念式典出席報告	19
皇太子殿下のおことば	21
ゴルフ連邦大統領のメッセージ	22

会員の広場

善通寺市	大久保あい	25
丸亀市	大西伯治	26
高松市	近藤昌紀	28
坂出市	武部裕光	29
丸亀市	田村慶三	30
高松市	西原 浩	31
高松市	乗松達郎	32
高松市	向井攻一	33
多度津町	村井信之	34

総会資料

2010年度	事業報告	36
2010年度	決算書	45
2011年度	事業計画	46
2011年度	予算書	47

香川日独協会創立20周年

記念講演会・記念式典日程

2011年5月15日 於 ANAホテルクレメント高松

20周年記念講演会

日 時 平成23年5月15日午後4時45分より

1. 開 会 西 原 副会長
2. 講師紹介
3. 講 演

『日独交流150周年』

神戸・大阪ドイツ連邦共和国総領事館
総領事 アレクサンダー オルブリッヒ 博士

4. 謝 辞 西 原 副会長

記念式典

日 時 平成23年5月15日午後5時30分より

1. 開 会
2. ご挨拶 香川日独協会会長 武部裕光
3. 祝 辞

大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事 アレクサンダー オルブリッヒ 様
香川県知事 浜田恵造 様
高松市長 大西秀人 様

4. 来賓紹介
5. 閉 会



ご挨拶

香川日独協会会長

武 部 裕 光

香川日独協会創立20周年記念の会報発刊にあたり、皆様に御礼を申し上げます。特に忙しい公務の中で、在ドイツ日本国大使神余隆博様、大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事アレクサンダー・オルブリッヒ様、香川県知事浜田恵造様、高松市長大西秀人様、全国日独協会連合会会長小森重隆様、ボン日独協会会長ステュッケンシュミット様には、祝辞を頂きました。厚く御礼を申し上げます。

香川日独協会は1991年に香川医科大学教授の細川清先生を会長として発足しました。発足当初より株式会社タダノ様の物心両面での援助を頂いたとお聞きしています。その後20年間、細川初代会長、中村二代会長のもとで会の組織は着実に成長し、現在では200名以上の会員を有する、全国日独協会連合会加盟団体の中で会員数の多い団体となりました。また、活発に活動している団体と大阪総領事館から高い評価を頂いております。特に昨年度、シュタンツェル・在日ドイツ大使の格別のご配慮を頂き、高松で講演会を開催できました。300名以上の皆様にご参加いただき、会場のかがわ国際会議場を満員にできました。協会の行事に対する会員の皆様の意識の求心力を感じます。ありがとうございました。

今年はドイツ（当時はプロイセン）と日本が友好通商条約を締結して150周年の年であります。ドイツ国内、日本国内で多くの記念行事が開催されています。香川日独協会でも2つの記念事業を開催することになり、準備を進めているところです。150年前プロイセンからオイレンブルク伯爵率いる東方遠征団が日本に来ました。それには画家が同行しており、江戸や神奈川の風景画を多く残しました。当時日本にはなかった遠近法の技法を用いた日本橋の風景画などは会員の皆様も新鮮な驚きがあると思います。オイレンブルク遠征隊の図録展を6月10日より7月13日まで香川県立東山魁夷せとうち美術館で開催いたします。6月9日にはオープニングセレモニーとビーダーマン副総領事の講演会、内覧会が行われますので会員の皆様の出席をお願い致します。

もう一つの企画は、シュタンツェル大使の発案で150周年を記念して150本の菩提樹を日本各地に植樹するという、リンデンバウムプロジェクトです。香川県では6月10日に高松の峰山公園に20本の菩提樹を植樹します。大西高松市長も参加して戴きます。大きく育って街路樹になりドイチェ シュトラッセのシンボルとなったらと希望しています。こちらでも会員の皆様の参加をお願い致します。

今、香川日独協会はドイツ連邦共和国大使館、総領事館、在ドイツ日本国大使館と密接な関係を保ちながら、行事を行えるようになりました。この素晴らしい関係を大切に、今後の協会の活動を進めていきたいと思っています。会員の皆様のさらなるご協力をお願い致します。



祝 辞

在ドイツ日本国大使

神 余 隆 博

このたび、香川日独協会が設立20周年を迎えられましたことに、心から祝意を表します。

1991年に設立されて以来、貴協会は様々な日独交流事業を開催されて来ました。香川において、ドイツが広く紹介され、日独友好の輪が広がっておりますことは、貴協会の長年にわたる活発な活動なしに語ることはできません。日独関係に携わる者として嬉しく思いますとともに、武部会長はじめ貴協会の日頃の活動に対し改めて感謝申し上げます。

貴協会は、過去20年の間、様々な活動を通じ、ドイツと香川県との友好関係の構築に多大な貢献をされてきました。特にボン日独協会との緊密な協力を通じ、旧西ドイツの政府所在地であったボンとの間での市民交流が活発に行われてきました。これらのことを通じ、2009年には中村敏子前会長にドイツ連邦共和国功労勲章が授与されましたが、これも中村前会長をはじめとする歴代の会長の方々、会員の皆様による地道な日独交流活動が高く評価されたことの表象であります。

私事ながら、私の故郷香川がドイツとの交流をかくも活発に行っていることは、現在駐独大使を務めている身にとっては非常に勇気づけられることです。一昨年6月には有志の方々がベルリンの私の公邸をご訪問頂き、とても嬉しく思った次第です。

周知のとおり今年は日独交流150周年にあたり、両国の友好関係を再確認する好機でもあります。私たちにとって重要なことは、このモメンタムを維持し、将来に向けてよりよい日独関係を築いていくことです。そのためにも、次代を担う青少年の交流をはじめ、今後も貴協会のご協力を得られれば幸いに存じます。

貴協会がこの20年の間に築かれた伝統を基に、さらにご発展されることを祈念しつつ、私のご挨拶といたします。

玉藻よし讃岐の国の弥栄を心より祈念します。



Grußwort von Herren Botschafter

Dr. Takahiro Shinyo

Botschafter von Japan in der Bundesrepublik Deutschland

Der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Kagawa möchte ich ganz herzlich zu ihrem 20-jährigen Bestehen gratulieren!

Seit ihrer Gründung 1991 hat Ihre Gesellschaft zahlreiche Austauschveranstaltungen zwischen Japan und Deutschland durchgeführt. Ohne ihr langjähriges Engagement hätte Deutschland in Kagawa nicht so umfassend vorgestellt und die Freundschaft zwischen beiden Ländern nicht derart ausgeweitet werden können. Für mich ist dies ein Anlass zu großer Freude, und ich möchte Ihrem Präsidenten Herrn Takebe und allen Mitgliedern für diesen unermüdlichen Einsatz ganz herzlich danken.

In den vergangenen 20 Jahren hat die JDG Kagawa auch einen wichtigen Beitrag für die Gestaltung freundschaftlicher Beziehungen zwischen Deutschland und der Präfektur Kagawa geleistet. Insbesondere fand in engem Zusammenwirken mit der DJG Bonn ein lebhafter Austausch auf der Ebene der Bürgerinnen und Bürger statt. Dafür wurde die frühere Präsidentin der Gesellschaft, Frau Nakamura, mit dem Verdienstorden der Bundesrepublik Deutschland ausgezeichnet. Diese Auszeichnung ist zugleich aber auch Ausdruck der großen Wertschätzung des Engagements von Seiten Frau Nakamuras, ihrer Vorgänger, sowie aller Mitglieder der JDG Kagawa.

Da ich selbst aus der Präfektur Kagawa stamme, ist es für mich als Botschafter von Japan in Deutschland besonders ermutigend und erfreulich, dass sich der Austausch zwischen meiner Heimat und Deutschland so lebendig gestaltet. Gerne erinnere ich mich an den Besuch von Vertretern aus Kagawa in meiner Residenz im Juni 2009.

In diesem Jahr feiern Japan und Deutschland das 150-jährige Jubiläum des Beginns ihres offiziellen Austausches. Somit bietet uns 2011 eine gute Gelegenheit, das freundschaftliche Verhältnis zwischen unseren beiden Ländern zu bekräftigen. Dabei ist es wichtig, diesen neuen Schwung zu bewahren und zukunftsgerichtete japanisch-deutsche Beziehungen zu gestalten. Ich würde mich freuen, wenn wir dabei auch auf die Zusammenarbeit Ihrer Gesellschaft, angefangen beim Austausch zwischen den jungen Menschen, zählen könnten. Der JDG Kagawa wünsche ich alles Gute für ihre künftige Entwicklung.

Möge die Präfektur Kagawa oder - wie es in einem alten Gedicht des Poeten Kakinomoto no Hitomaro heißt - die an Früchten des Meeres so reiche Provinz Sanuki auch in Zukunft stets blühen und gedeihen!



Liebe Mitglieder der JDG Kagawa

Dr. Alexander Olbrich

Generalconsul der Bundesrepublik Deutschland

Liebe Mitglieder der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Kagawa,

Ihrer Gesellschaft möchte ich meinen herzlichsten Glückwunsch zum 20. Jubiläum zum Ausdruck bringen.

Ihre Gesellschaft ist inzwischen eine der aktivsten JDGs in ganz Japan geworden. Dies habe ich bei meinem Vortrag vor Ihrer Gesellschaft im Herbst 2009 über 20 Jahre nach dem Fall der Mauer selbst erleben dürfen, und seitdem waren auch schon Herr Botschafter Dr. Stanzel sowie mein Vertreter Herr Biedermann da. Im Herbst 2010 durften wir eine Abordnung der JDGs Kagawa und Kobe beim Deutschen Weihnachtsmarkt in Osaka begrüßen.

Als früheres langjähriges Mitglied der DJG Bonn - davon einige Jahre auch im Vorstand - und jetziges Mitglied der DJG Berlin bin ich mir der mühevollen, ehrenamtlichen Arbeit hinter den Kulissen bewußt, alle Generationen zu mobilisieren. In Bonn wusste ich schon vor vielen Jahren über die Partnerschaft Bescheid. Meine Frau und ich hatten sogar Ende der 90er Jahre in Wachtberg bei Bonn häufig junge Japaner und Japanerinnen aus Kagawa zu Gast. Auch hier dürften schon viele Besucher aus Deutschland die Schönheiten von Takamatsu und Umgebung, wie z.B. den Ritsurin-Garten, die Seto Inland Sea mit ihren vielen malerischen Inseln und die berühmten Tempel und Schreine der Umgebung genießen.

Vor allem schätzen wir den aktiven grassroots-Austausch der JDG:

- Aufnahme deutscher Besucher in Kagawa (Home Stay – Home Visit Programm)
- Vielfältige Aktivitäten, insbesondere Kulturveranstaltungen wie zum Beispiel die Posterausstellung 20 Jahre nach dem Mauerfall
- Besonders die Aktivitäten der Jungen Gemeinschaft sind äußerst wichtig für die Zukunft.

Dies verdanken wir allen Mitgliedern unter Präsident Dr. Takebe, dem Nachfolger von Frau Nakamura, die durch ihren langjährigen Einsatz die Basis der Gesellschaft aufgebaut hat.

Wir begehen in diesem Jahr das 150-jährige Jubiläum der Freundschaft zwischen Deutschland und Japan. Es ist für uns eine große Freude, dass im kommenden Juni Holzschnitte über die Eulenburg-Mission vor 150 Jahren im Higashiyama-Kaii-Museum in Kagawa ausgestellt werden.

Ich wünsche der Gesellschaft eine weitere erfolgreiche Entwicklung auch in den kommenden 20 Jahren.



祝 辞

大阪神戸ドイツ連邦共和国総領事

アレクサンダー オルブリッヒ

創立20周年に際して心から祝福申し上げます。

香川日独協会は、今では全国の日独協会のなかで最も活動的な団体の一つに数えられるようになっていきます。この点については、香川で2009年の秋に壁崩壊20周年の講演を行った時に私は身をもって認識した次第です。その後もシュタンツェル大使やビーダーマン副総領事が皆様のもとを訪れています。2010年秋には、香川と神戸の日独協会の皆様にドイツクリスマスマーケット大阪に迎えさせて頂きました。

かつて私は長年にわたってボン日独協会のメンバーで、数年間はその理事を務めたこともありますし、現在はベルリン日独協会の会員です。従ってあらゆる世代の会員を動かすにあたって、皆様が行なっておられるような舞台裏でのボランティア的な取り組みが如何に苦勞を伴う大変なものであるか承知しています。皆様方のボン日独協会とのパートナー関係についても、私はずっと以前にボンに滞在した時から知っていました。そればかりか90年代には、私は家内とともにボン郊外のヴァハトベルクの自宅に香川出身の若い人たちをしばしば受け入れたものです。同様に香川でも多くのドイツ人が栗林公園や風光明媚な島々が浮かぶ瀬戸内海、そして著名な神社仏閣などを、高松やその周辺で堪能する機会に恵まれています。

特に香川日独協会の活発な草の根交流には感銘を受けています。例えばホームステイ・ホームビジット・プログラムなどで香川にドイツ人を受け入れて頂いています。また壁崩壊20周年を記念したポスター展など文化を中心に多彩な事業も展開されています。若者の会の活動も活発で、これは将来に向けて極めて重要なことです。

これもひとえに長年のご尽力で協会の基盤を固めてこられた中村様、そしてその後継を務める武部会長はじめ会員の皆様のおかげに他なりません。

今年は日独交流150周年です。来たる6月には香川県立東山魁夷せとうち美術館でオイレンブルク東方遠征隊図録の展覧会が行われますが、大いに楽しみにしています。

香川日独協会がこれからの20年も更に発展することを切に願って、お祝いの言葉とさせていただきます。



祝 辞

香川県知事

浜 田 恵 造

香川日独協会の創立20周年、誠におめでとうございます。

貴協会は、文化及び産業における日独両国間の友好関係を深めるとともに、両国民の親善を図ることを目的として平成3年に設立されて以来、講演会、研究会、音楽会、写真展など様々なイベントの開催により広く県民にドイツのことを紹介するとともに、ホームステイなどを通じて、香川県とドイツとの相互交流の促進と友好親善に多大の貢献をしてこられました。こうした活動は人と人とのふれあいを大切にする温かいものであり、歴代会長をはじめ、会員の皆様方のご熱意とご努力に深く敬意を表します。

日本とドイツの出会いは17世紀に長崎の出島で医師として活躍したシーボルトに遡り、当時の西洋医学の先端の情報を日本へ伝えると同時に、日本研究の緒を開いたとされています。その後、日本が近代国家へと発展する過程において文化や制度をはじめ様々な影響を受け、両国の関係は深まりました。

とりわけ香川における出来事としては、第一次世界大戦時の1914年に、ドイツ兵の方々が香川県丸亀市の俘虜収容所に収容され、その中にいた音楽家を中心に楽団が結成され、丸亀高等女学校で演奏を行うなど、音楽を通じて地域との交流が積極的に展開されたと言われています。

現在では、経済はもとより、文化・学術交流など多種多方面での交流が活発に行われています。本県におきましても、貴協会とボン独日協会の姉妹協会としての交流をはじめ、大学間の学術交流、スポーツ少年団の相互交流など、親密な交流が続いています。

折りしも、本年は日独交流150周年という記念すべき年に当たり、全国的にも交流の気運が高まっています。皆様方におかれましては、これを機会に、香川県とドイツの交流拡大のため、より一層のご尽力をいただきますようお願いいたします。

貴協会のますますのご発展と、皆様方のご健勝、ご活躍をお祈りして、お祝いの言葉といたします。



Governor's Message

Keizo Hamada

Governor of Kagawa Pref.

I would like to offer my congratulations to the Japan-Germany Society Kagawa on the 20th anniversary of your organization's founding.

The Japan-Germany Society of Kagawa has strengthened the relationship between Japan and Germany in terms of culture and industry. Since the inauguration of the Society in 1991, with the goal of building friendly relationships between our respective citizens, you have held many different events, including such things as lectures, research conferences, musical performances, and photography exhibits. In addition to introducing Germany widely throughout the prefecture, you have made great contributions to the promotion of mutual exchange and friendship between Kagawa Prefecture and Germany, through homestay programs and other activities. These activities provide a warm and friendly means by which the people of our two countries can continue to value the mutual interaction between us. Starting with the successive chairpersons of the Society, I would like to thank all of your members for your enthusiasm and cooperation.

Exchange between Japan and Germany began in the 17th century on the island of Dejima in Nagasaki, where Philipp Franz Siebold worked as a doctor, brought the forefront of modern Western medicine to Japan, and opened the door to research in Japan. Not long after that the mutual relationships between Japan and Germany were strengthened as we developed to become a modernized country and drew influences from such things as German culture and political systems.

One event that marked the beginning of very active exchange between our countries in the area of music was the performance in 1914 of a band comprised of German POWs, who gave a concert at the Marugame Girl's High School.

In the present day, exchange between Kagawa and Germany is being conducted in many fields, including the economy, culture, academia, and many more. Close exchange relations continue with such activities as the Sister Society relationship between the Japan-Germany Societies of Kagawa and Bonn, academic exchange at universities, and mutual youth sports exchange programs.

This year, Japan and Germany will be celebrating the 150th anniversary of the beginning of exchange between the two countries, and exchange events will be going into full swing throughout the country. I hope that on this occasion you will continue to expand the exchange between Kagawa and Germany even further.



祝 辞

高松市長

大 西 秀 人

香川日独協会が記念すべき創立20周年を迎えられましたこと、心からお慶び申しあげます。

また、日独友好交流の起点である日本・プロイセン修好通商条約が締結されてから150周年という節目の年を皆様とお祝いできることを大変嬉しく存じます。

香川日独協会の皆様におかれましては、これまで20年の長きにわたり、留学生や訪問団の受入れ、来日ドイツ人との交流、講演会やコンサートの開催など、日独両国の友好親善活動に積極的に取り組まれておりますこと、深く敬意を表しますとともに、本市の国際交流の推進にも、格別の御協力を賜っておりますこと、厚く御礼申しあげます。

さて、ドイツと日本の150年にわたる友好の歴史を振り返りますと、明治時代、日本はドイツを規範に憲法を制定するなど諸分野でドイツから多くを学び、戦後は両国ともに同じような復興と発展の軌跡をたどる中で、経済大国として、更に緊密な連携を持つようになりました。近年では、若者層を中心に、日本のマンガやアニメがドイツに浸透しており、巨大なマンガ市場が形成されていると伺っておりまして、日本のアニメ文化等ソフト・パワーを活かした市民外交は、今後、更に活発な交流につながるものと期待しております。

本市といたしましても、スポーツ少年団の相互派遣や、ハロージャパンの研修生の受入れのほか、ドイツハンブルグの桜の女王を本市にお迎えするなど、様々な交流を図っておりまして、両国の友好親善をリードしてこられた貴協会には、この度の創立20周年を契機として、更なる御支援・御協力をお願い申しあげます。

最後に、日独交流の今後一層の進展と香川日独協会の御発展、そして、会員皆様の御健勝・御活躍を心から祈念申しあげ、お祝いのごあいさつといたします。
Herzlichen Glückwunsch! (心よりお祝い申し上げます。)



Mayor's Message

Hideto Onishi

Mayor of Takamatsu.

I wish to extend my heartfelt congratulations to the Japanisch-Deutsche Gesellschaft (JDG) Kagawa on its 20th anniversary. This year also marks the 150th anniversary of the Prusso-Japanese Treaty, making 2011 a true milestone in Japan-Germany friendship, and it is my honor and privilege to participate in the celebration.

For 20 years, JDG Kagawa has been sincerely dedicated to its mission of cultivating friendship between our two countries through interpersonal relationships and cultural exchanges, such as music concerts and lectures, as well as by welcoming students and delegations from Germany to Takamatsu. I would like to honor these achievements and extend my appreciation for JDG Kagawa's great contributions towards promoting international exchange activities in the city of Takamatsu.

Over the past 150 years, Japan and Germany have maintained a close cross-cultural relationship. Initially, this connection was largely due to Germany's invaluable role as a model for Japan's modernization during the Meiji Restoration. Years later, the Japan-Germany bond was intensified when both countries became great economic powers during the process of postwar reconstruction and development. In more recent years, Japanese Anime and Manga have been reaching a wider audience centered on young people, and have found a big market in Germany. Such an exchange suggests that citizen diplomacy based on soft power, including Manga and other such cultural assets, is likely to prove a vital catalyst for strengthening our international relationship in the future.

Likewise, the city of Takamatsu has taken an active role in developing a relationship with Germany by receiving, "Hello Japan" trainees and Hamburg's Cherry Blossom Queen, as well as mutual visits of the Junior Sports Club Association members. Now, with this 20th anniversary adding momentum to JDG Kagawa's mission, we feel that we can expect their continued support and cooperation in fostering international relationships



祝 辞

全国日独協会連合会会長

古 森 重 隆

この度は、香川日独協会設立20周年、誠におめでとうございます。

香川日独協会は、1991年に設立されて間もなく、ドイツとのより親密な交流を望まれた中村敏子氏が、1993年に旧西ドイツの首都ボンにある独日協会を訪問して、当時事務局長をしておられたマリアンヌ・メンヒさん(現ボン独日協会名誉会長)と交渉し、翌年10月17日にパートナーシップの調印にこぎ着けたと聞いております。以来、中村前会長は両協会間での交流を充実させると共に、J G K (若者の会) を創設して若手会員を育てるなどの功績がドイツ連邦共和国大使館にも認められて、2009年10月には、ホルスト・ケーラー大統領からドイツ連邦共和国功労勲章功労十字小綬章を授与されました。

更に、2009年5月からは名誉会長に退かれた中村敏子氏に代わり、香川県歯科医師会副会長の武部裕光氏が会長に就任して、対外的にはドイツ大使館、総領事館、駐独日本大使館とのコンタクトを密にし、対内的には理事会での活発な議論を通じて、より充実した協会の運営に腐心しておられるようです。

このような状況の下、「日独交流150周年」の記念の年に設立20周年を迎えられることは、誠に喜ばしい限りであります。

香川日独協会の今後益々のご隆盛を心から祈念して、私の祝辞とさせていただきます。



Ansprache

Shigetaka Komori

Präsident der VJDG

Zum 20. Jubiläum der Gründung der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Kagawa möchte ich meine herzliche Gratulation aussprechen.

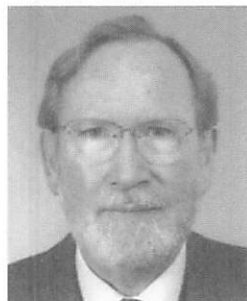
Soweit mir bekannt ist, besuchte Toshiko Nakamura, die einen stärkeren Austausch zwischen Japan und Deutschland wünschte, 1993, kurz nach der Gründung der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Kagawa im Jahr 1991, die Deutsch-Japanische Gesellschaft in Bonn, der Hauptstadt Westdeutschlands. Dort hatte sie mit der damaligen Verwaltungsdirektorin Marianne Mönch (der derzeitigen Ehrenvorsitzenden der Deutsch-Japanischen Gesellschaft Bonn) eine Besprechung, und im folgenden Jahr am 17.10. hat sie die Unterzeichnung einer Partnerschaft erreicht.

Seitdem wurde von der Botschaft der Bundesrepublik Deutschland neben der Bereicherung des Austausches zwischen den beiden Gesellschaften durch die ehemalige Präsidentin Nakamura auch ihre Gründung der JGK (ein Jugendverband) und ihr Erfolg in der Jugendarbeit anerkannt und gewürdigt. Im Oktober 2009 wurde ihr von Bundespräsident Horst Köhler der Verdienstorden der Bundesrepublik Deutschland und das Verdienstkreuz am Bande verliehen.

Mit Hiromitsu Takebe, der seit Mai 2009 anstelle der in den Ehrenvorstand zurückgetretenen Toshiko Nakamura das Amt des Präsidenten bekleidet, wurden auswärtig besonders die Kontakte zur Deutschen Botschaft, zum Generalkonsulat wie auch zu den japanischen Botschaften in Deutschland sorgfältig gepflegt, intern hat er die Gesellschaft stets durch lebhafte Diskussionen in den Vorstandssitzungen belebt und bereichert.

Bei der oben benannten Situation ist es wirklich erfreulich, dass wir das 20. Gründungsjubiläum gerade im Jubiläumsjahr „150 Jahre Freundschaft Japan-Deutschland“ begehen dürfen.

Ich wünsche mir von Herzen, dass die Japanisch-Deutsche Gesellschaft Kagawa auch weiterhin immer mehr gedeiht, und möchte nochmals meine herzlichen Glückwünsche aussprechen.



Grusswort

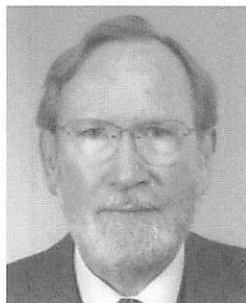
Dierk Stukenschmidt

1. Vorsitzender der DJG Bonn

Sehr geehrter Herr Dr. Takebe,
zum 20-jährigen Bestehen der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Kagawa übersende ich Ihnen im Namen der Deutsch-Japanischen Gesellschaft Bonn die herzlichsten Glückwünsche! Wir als Ihre deutsche Partnergesellschaft werden in Gedanken bei der Festveranstaltung im Mai bei Ihnen sein. Wie schön wäre es, wenn wir wirklich gemeinsam feiern könnten, doch wird zu dem von Ihnen genannten Zeitpunkt leider kein Mitglied unseres Vorstands in Japan weilen. Vielleicht werden wir uns aber schon im April bei der Tagung unserer beiden Dachverbände in Nara, an der ich selbst teilnehmen werde, treffen können; und dann hoffe ich natürlich sehr, dass Sie Ihren Plan, im September nach Bonn zu kommen, verwirklichen werden!

Ich persönlich habe mich immer mit der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Kagawa verbunden gefühlt und erinnere mich gern an die Gastfreundschaft, die ich bei meinen Besuchen in Takamatsu genießen durfte. Bei diesen Gelegenheiten war ich offiziell stärker mit der Universitäten in Ihrer Präfektur als mit Ihrer Gesellschaft Verbunden, weil ich lange Jahre als Vertreter des Deutschen Akademischen Austauschdienstes(DAAD)in Tokyo gearbeitet habe. Doch als Begründer unserer Bonner Gesellschaft lag mir der Kontakt mit Ihren Mitgliedern auch damals sehr nahe. Es ist ein großes Glück, dass die für die Entwicklung unserer freundschaftlichen Beziehungen von Anfang an besonders verantwortlichen Personen, vor allem Frau Marianne Mönch, Herr Peter Himmelstein und Herr Kozo Kobayashi, auch jetzt Mitglieder des Bonner Vorstands sind. Wir alle sind sehr daran interessiert, unsere partnerschaftliche Zusammenarbeit auch in Zukunft ähnlich fruchtbar und herzlich zu gestalten wie bisher.

Mit nochmals allen guten Wünschen und herzlichen Grüßen,
Ihr Dierk Stuckenschmidt



祝 辞

ボン独日協会会長

ディエルク シュトゥッケンシュミット

春寒やや緩むこのごろ、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は独日協会ボンにご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この度香川日独協会設立20周年を迎えられるに当たり、独日協会ボンを代表致しまして心よりお祝い申し上げます。

来る5月15日の香川日独協会設立20周年記念式典におきましては、ご一緒にお祝い出来れば本当に良いのですが、残念ながらこの時期に当協会役員で日本へ行っている者はありません。従って式典に出席は出来ませんが、ドイツの姉妹協会として気持ちだけは参加致しております。

しかしながら、4月に奈良で行われます日独連合会会議には私自身も出席致しておりますので、お会いすることが可能かと存じます。その際には9月の貴協会ボン訪問プランが現実のものと成っておりますことを念じております。

私は以前ドイツ学術交流会(DAAD)の代表として東京で勤務致しておりました。その当時は日独協会というよりは香川県の大学と頻繁に公式交流を致しておりました。そして、香川を訪問する度に心暖かく 寛待頂き、その暖かい思い出とともに香川日独協会とは常に結び付きを感じております。また、独日協会ボンの設立者として当時香川日独協会の会員の方々とのコンタクトを通じて、とても身近に感じておりました。

両姉妹協会の友好関係の発展には、その当両姉妹協会の友好関係の発展の上で、特にその責任者の方々、まず最初にマリアーネ・ミュンヒ夫人を筆頭として、ペーター・ヒンメルシュタイン氏、そして小林氏が今も当協会の現役役員であるということは大きな幸運であると存じます。私共一同は将来においても、今までと変わることなく姉妹協会としての協力が実り多いものと成りますことを心より願っております。

未筆ながら、ここにあらためて皆様のご健勝をお祈り致しますと共に心よりご挨拶申し上げます。



会長時代の思い出

香川日独協会名誉会長

中村 敏子

草の根で発足した香川日独協会も今年20周年を迎える。ボランティア団体として内外で数多くの行事を展開した中でおもにドイツとの思い出をしるすことにしよう。

初代会長・細川清先生の業績を受け継いだ私の会長在任12年は足早に過ぎた。Bonn独日協会との姉妹提携、相互ホームステイ交流、交流団体としての相互訪問、ドイツにおける日本年、日本に於けるドイツ年、ドイツ観光展、社会福祉史展など。家族のような絆の協会員方々に知恵と力と情熱を頂いて走りぬけることができたことが有り難く感謝の言葉もない。

ホームステイ交流は日・独の協会員が互の国を訪れた時「気軽に立ち寄れる親戚」といえる受け入れ家庭があり、双方とも安心して心を通わせる交流が続けてきた。年齢にかかわらず人との交流はお互い刺激し合い信頼関係を深く築くことで楽しみが増えた。何よりも、若者や学生がホームステイ、留学を通じてドイツの友人と交わした思い出を胸に帰国し、香川大学を中心に純粋な想いが高まり大きな輪となって動きだした。この繋がりが「若者の会」創設という流れを起こし全国でも範たる会として成長しているのを見るにつけ感慨ひとしおである。

1999年9月「ドイツに於ける日本年」の開会式をBERLINで終え、留学中の学生を訪ねたWiesbadenのホテルでのこと。テレビの画面はトップニュースに「東海村原発事故」を伝えた。ついぞ日本の話題の少ないドイツで放射能の不安を大きく報じ、この年のノーベル文学賞に「ブリキの太鼓」作家グンター・グラス氏が選ばれたことを祝したのはこの後であった。

そして世界が震撼とした3月11日。東日本大震災に及んでは放射能に大変敏感なドイツから全国独日協会連合会の有志が会合を兼ね、慰霊をこめた義援金を携え日本を訪問して下さる。今までの交流の深さを有り難く受け止めた。

私には、家族と過ごしたドイツで頂いた大きなご恩がある。彼らとは終世の友でありたいと願っている。(2011.4.10記)

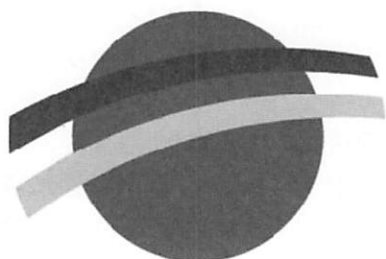
20周年記念式典

香川日独協会20年の歩み

- 1991年 10月 13日 香川日独協会発足 設立総会
- 1992年 11月 11日 「ドイツのお祭り」写真展
～ 12月 11日
- 1994年 10月 17日 ボン独日協会と姉妹協力関係締結
- 1996年 4月 29日 ボン独日協会創立20周年記念式典参加 於ボン大学
- 1988年 4月 13日 ヴィランツハイム吹奏楽団演奏会、音楽とビールの日開催
- 1999年 10月 26日 オルデンプルク独日協会・盆栽クラブより12名来県、研修
～ 31日
- 2000年 7月 21日 ドイツ訪問団派遣、ドイツにおける日本年参加、
～ 29日 ボン迎賓館前にて「さぬき踊り」披露
- 2001年 9月 26日 香川日独協会創立10周年記念
デュレンバッハ音楽隊演奏会、記念パーティー開催
- 2002年 1月 22日 ブライジンガー総領事講演会、「新しい外交政策について」
- 2002年 3月 23日 ハンブルク桜のプリンセス、アンネマリー・メゼイさんを囲む会
- 2003年 3月 5日 ドイツの客船「アスター号」高松寄港、交流会
- 2003年 6月 13日 バスツアー（四国アサヒビール園と朝倉村タオル美術館見学）
- 2003年 10月 5日 鳴門市ドイツ館館長田村一郎氏講演会 開催
- 2004年 3月 22日 日独友好交流会開催
- 2004年 10月 9日 香川日独協会講演会（ボン独日協会姉妹提携10周年記念）
「日独関係を考える」講師木村敬三氏（元ドイツ大使）
- 2005年 4月 29日 ドイツ・子供の絵本展開催
～ 5月 31日
- 2005年 7月 22日 ドイツ観光ポスター展「ドイツ大好き」開催
～ 24日
- 年 11月 15日 ドイツ環境保全展開催
～ 25日
- 2006年 4月 9日 さくら交流会（ベルリン独日協会来訪）開催
- 2006年 8月 7日 丸亀俘虜収容所に見る日独交流、(ドイツ兵が撮った写真展)
～ 10日

- 2007年 3月 28日 ブラウンシュバイク旅行団と交流
- 2007年 7月 19日 デア・ドイツ大使、リテック・フランス大使歓迎会
- 2007年 7月 19日 香川日独協会若者の会設立
- 2007年 11月 2日 「ドイツのユネスコ世界遺産」写真展開催
～ 12日
- 2008年 3月 12日 画像と記録資料で綴る「ドイツ社会福祉展」開催
～ 30日
- 2008年 10月 19日 講演会「ドイツの温暖化防止政策」とドイツ環境保全ポスター展
- 2009年 1月 8日 中村敏子前会長にドイツ連邦共和国功労勲章授与
- 2009年 2月 11日 春を呼ぶ会(叙勲祝賀会)開催
- 2009年 4月 19日 全国日独協会「若手会員の集い」(東京・JGK長澤)
- 2009年 4月 29日 大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館見学会
- 2009年 5月 11日 定例総会
- 2009年 6月 7日 香川日独協会ドイツ訪問
～ 14日
- 2009年 7月 11日 ドイツビールを楽しむ会
- 2009年 8月 2日 ドイツスポーツ少年団との交流会
- 2009年 8月 29日 ミューラー領事、ドイツ俘虜墓参同行
- 2009年 9月 23日 ベルリンの壁崩壊20周年記念オルブリッヒ総領事講演会
- 2009年 10月 31日 香川県国際交流協会設立20周年記念奨励賞受賞
- 2009年 10月 2日 総領事館主催ドイツ統一記念日レセプション(神戸)
- 2009年 10月 31日 オクトーバーフェスト (ドイツワインを楽しむ会)
- 2009年 12月 3日 クリスマス会
- 2010年 2月 11日 春を呼ぶ会 (ドイツ料理を楽しむ会)
- 2010年 4月 11日 日独協会連合会「若手会員の集い」(東京)中尾理事出席
- 2010年 4月 12日 全国日独協会連合会総会(東京) 武部会長出席
- 2010年 5月 17日 定例総会
- 2010年 5月 16日 ビーダーマン副総領事講演会
- 2010年 7月 20日 シュタンツェル大使講演会
- 2010年 7月 31日 ドイツビールを楽しむ会
- 2010年 10月 24日 オクトーバーフェスト (ドイツワインを楽しむ会)
- 2010年 11月 23日 総領事館訪問、大阪クリスマスマーケット参加
- 2010年 12月 11日 クリスマス行事(アドベントカフェ)
- 2011年 1月 24日 日独交流150周年記念式典(武部会長)
- 2011年 2月 11日 春を呼ぶ会 (ドイツ料理を楽しむ会)

日独交流150周年記念出席報告



日独交流150周年
Jahre Freundschaft
Deutschland – Japan

日・プロイセン修好通商条約調印
150周年記念式典

Festakt zur Feier des
150jährigen Jubiläums der Unterzeichnung
Des Freundschafts-und Handelsvertrages
zwischen Preußen und Japan

平成23年1月24日 国立新美術館
24.Januar 2011 The National Art Center, Tokyo

日・プロイセン修好条約調印150周年記念式典

ドイツ大使館HPより引用

2011年1月24日、日独両国はともに日・プロイセン修好通商条約調印から150周年となる記念日を祝いました。この日行われた記念式典には政治・経済・科学・文化など各界を代表するおよそ200人の方々が招かれました。式典冒頭、シュタンツェル大使は来賓の方々を前に歓迎の辞を述べ、日独交流 150周年のドイツ側名誉総裁のクリスティアン・ヴルフ連邦大統領のメッセージを読み上げました。

記念式典には皇太子殿下がご出席され、日独交流150周年の日本側名誉総裁としてご挨拶されました。殿下がご挨拶をドイツ語で締めくくられたことは、出席者に深い印象を残しました。引き続き、ベルント・ノイマン連邦首相府文化メディア担当国务大臣や松本剛明外務副大臣もそれぞれ国の代表としてスピーチを行いました。日独関係は大勢の若い人達の熱意と活動に大いに支えられています。これは式典でも同様で、日独両国国歌斉唱、また、条約締結時を再現する寸劇などが東京横浜独逸学園の生徒たちによって披露されました。劇中、来賓席にいたオイレンブルク伯爵や徳川将軍家茂、老中主座の安藤信正、竹本図書頭など条約締結に係わった人たちの子孫の方々が紹介され、会場の人々を驚かせました。この他にも日本人の母親とドイツ人外交官を父親にもつピアニスト エリカ・ヘルツォークさんやジャズピアニストの大原保人さんによる演奏などがプログラムに彩りを添えました。この日、東京・港区の国立 新美術館内の講堂が式典会場となりましたが、そのロビーでは、皇太子殿下に御覧いただこうと日独関係の過去と現在を結ぶ展示が行われました。御覧いただいたのは日・プロイセン修好通商条約のコピーとプロイセン使節団に所属したドイツ人画家アウグスト・ベルクによって描かれた江戸の風景画で、これらは 1861年当時の江戸の雰囲気をよく伝えているものです。また、使節団から将軍家茂に献上された、大変貴重な4つの「磁器透かし絵」が展示されました。歴史的価値が高いグリム童話の初期のドイツ語および日本語版も展示され、カッセルにあるグリム博物館長をつとめるベルンハルト・ラウアー氏によって解説が行われました。当日は、日独交流150周年を記念する日独共同切手の発行日にあたり、郵便事業株式会社の鍋倉眞一代表取締役社長から皇太子殿下、またノイマン国务大臣へ記念切手の贈呈が行われました。他にも、ドイツ人男性研究者と日本人女性研究者の学術論文の展示や、ドイツ大使館主催絵画コンテスト「わたしのドイツ」の入賞作品が展示され、皇太子殿下から直接言葉をかけられた受賞者の生徒たちは、緊張しながらもまたとない経験に大喜びの様子でした。

この日の行事を締めくくるレセプションには前原誠司外務大臣も出席し、出席者の方々は闊達に日独関係について意見を交わしていました。

記念式典における皇太子殿下のおことば

平成23年1月24日(月)(国立新美術館)

宮内庁HPより引用

本日、日独交流150周年日本側名誉総裁として、日・プロイセン修好通商条約調印から150年という節目の日に、多くの関係者の皆さんと共にお祝いできることを大変うれしく思います。1860年に来日したオイレンブルク伯爵率いるプロイセン使節団は、1861年1月24日、徳川幕府との間で日・プロイセン修好通商条約を締結し、150年の長きにわたる両国の友好と交流の歴史が始まりました。明治維新後の日本にとって、1871年にプロイセンを中心に統一を達成したドイツは、近代化のため模範となった国の一つであり、我が国はドイツから、法学、医学、芸術を始め、様々な分野で多くを学んできました。また、日本の伝統文化も、ドイツの芸術に少なからぬ影響を及ぼしてきました。

その後、日独両国は、戦後、同じような復興と発展の軌跡をたどる中で更に結び付きを強め、今日、基本的価値を共有するグローバルなパートナーとして、日独のみならず広く国際社会の利益のためにも、政治、経済はもちろん、文化、学術分野においても緊密に協力しています。また、両国国民は、相互に親近の情と敬意を有し、国民間の交流も活発に行われています。日独協会、独日協会、ベルリン日独センター、ドイツ東洋文化研究協会といった日独交流を目的とする団体が活発に活動し、また、地方自治体、大学・研究機関、文化機関、企業を始め多くの団体を通じて、活発な日独交流が行われています。

こうした交流のネットワークを背景に、観光やビジネス、留学を始めとした様々な目的を持って、多くの人々が両国を相互に訪問しています。私自身、短い滞在を含め、3回ドイツを訪問しましたが、訪れたそれぞれの都市が、それぞれの異なる歴史や文化を持つ魅力があったこと、また、訪問した先々でドイツ国民の皆様に変えていただいたことが今でも深く心に残っています。

また、私は、音楽などを通じドイツの芸術に深い愛着を感じておりますが、訪問の際に、私たち日本人を魅了してやまないドイツの音楽や絵画に、本場で触れる機会を得たことをうれしく思っています。日独交流150周年は、これまでの両国の交流の歴史を振り返る機会であると同時に、急速に変貌する世界の中で、未来に向けて日独の協力や交流を深め、新たにしていく機会でもあると思います。日独交流150周年を記念して、日独両国で様々な行事が行われていますが、これらの行事を通じ、日独両国国民それぞれが、これまでの両国間の友好関係に思いをはせるとともに、こういった行事を契機に、今後、政治、経済、文化、学術といった幅広い分野で、交流が更に活発になることを願い、私の挨拶といたします。

Auf ein erfolgreiches Jubiläumsjahr !

Vielen Dank für Ihre Aufmerksamkeit !

記念式典における大統領のメッセージ(1)

*Der Präsident
der
Bundesrepublik Deutschland*

Berlin, im Januar 2011

**Grußbotschaft
von Bundespräsident Christian Wulff
anlässlich des Festaktes
in Erinnerung an den
bilateralen Freundschafts-, Handels- und Schiffsverkehrsvertrag von 1861
im Rahmen des Jubiläumsjahres
„150 Jahre Freundschaft Deutschland - Japan“
Tokyo, 24. Januar 2011**

Deutschland und Japan feiern dieses Jahr 150 Jahre diplomatischer Beziehungen. Der 1861 zwischen Berlin und Tokyo abgeschlossene Freundschafts-, Handels- und Schiffsverkehrs-Vertrag war allerdings keine einfache Geburt. Über ein Vierteljahr wurde verhandelt. Aber am Ende unterzeichneten beide Seiten. Im Vertrag findet sich eine bemerkenswerte Präambel: „Es soll ewiger Frieden und beständige Freundschaft ... zwischen den beiderseitigen Untertanen sein“.

Die „Untertanen“ füllten den Text mit Leben. In den nächsten Jahrzehnten kam es zwischen Deutschen und Japanern zu vielen, von gegenseitiger Sympathie geprägten Begegnungen. Wie solide die Freundschaft zwischen unseren Völkern war, zeigte sich im ersten Weltkrieg. Obwohl Tokyo und Berlin Kriegsgegner waren, schlug den internierten Deutschen in Japan selber kein Hass, sondern Wohlwollen entgegen. Das deutsche Haus in Naruto ist ein eindrucksvolles Zeugnis von Menschlichkeit und Respekt.

Leider waren diese zwei Eigenschaften im Zweiten Weltkrieg Mangelware. Unsere Länder haben auf dem Irrweg der Gewalt großes Unglück über Andere und sich selbst gebracht. Deutschland und Japan haben aber auch nach den schrecklichen Ereignissen des

記念式典における大統領のメッセージ(2)

Zweiten Weltkriegs einen demokratischen Neuanfang unternommen und als multilateral ausgerichtete Friedensmächte den Wiederaufstieg geschafft. Rechtsstaatlichkeit, Demokratie und ein offenes Wirtschaftssystem waren der Rahmen, in dem sich Fleiß, Fähigkeit und Leistungsbereitschaft unserer Völker entfalten konnten. Auch diese Erfahrung teilen die Menschen in unseren Ländern.

Japan ist für uns Wertepartner in Asien, mit dem sich die Regierung aufs Engste abstimmt. Als Beispiele nenne ich hier nur die Reform der Vereinten Nationen, weltweite Abrüstung und ein offenes Welthandelssystem. Aber die Zusammenarbeit geht weit über die Regierungen hinaus. Die Zivilgesellschaften unserer Länder unterhalten ein dichtes Netz an Kontakten. Deutsche und Japaner werden auch weiter von- und miteinander lernen: Wie gehen wir mit dem demographischen Wandel um? Wie können wir so wirtschaften, dass der Wohlstand nicht die Lebensgrundlagen zukünftiger Generationen zerstört? Wie können wir in Frieden mit unseren Nachbarn und der Welt leben?

Das Jubiläumsjahr soll Rückblick und Vorschau zugleich sein. Hoffentlich springt bei vielen Veranstaltungen ein „schöner Götterfunke“ über und begeistert noch mehr Menschen für die Zusammenarbeit. Ich selber freue mich sehr darauf, auch persönlich an Veranstaltungen teilzunehmen, sei es in Deutschland oder in Japan.



(訳文)

ベルリン、2011年1月

クリスティアン・ヴルフドイツ連邦共和国大統領メッセージ
日・プロイセン修好通商条約（1861年）調印
150周年記念式典に寄せて

（「日独交流150周年」関連行事）
東京、2011年1月24日

ドイツと日本は今年、外交関係開設150周年を祝います。1861年に日本とプロイセンの間で締結された修好通商条約は、決してすんなりと誕生したものではなく、交渉は数カ月にも及びました。それでも最終的には、双方の調印にこぎつきました。条約には、第一条に注目すべき一節が盛り込まれています。「其互の所領巨民の間に永久の平和懇親あるへし」というくだりです。

「所領巨民」たちはこの条文を実践に移し、続く数十年間、ドイツ人と日本人の間には、相互の親近感に満ちた多くの交流が生まれました。両国国民の友好がいかに堅固なものであったかは、第一次世界大戦で明らかとなりました。日本とドイツは敵国同士でしたが、補虜として日本にやってきたドイツ人は、憎しみではなく親しみをもって遇されたものです。徳島県鳴門市のドイツ館は、当時の人間性と他者への敬意の証であり、訪れる人に感銘を与えます。

残念ながら、この二つの特性は、第二次世界大戦ではめったに見られなくなりました。両国は、暴力の道に迷いこみ、他国ならびに自らに甚大な不幸をもたらしました。しかし、第二次世界大戦の惨禍を経たドイツと日本は、民主主義のもとで再出発し、多国間協調を指向する平和国家として復興を果たしました。法の支配、民主主義、開かれた経済体制が枠組となり、両国国民の勤勉さ、能力、意欲が開花していったものです。これも、両国の人々に共通する経験です。

ドイツにとり、日本はアジアにおいて価値を共有するパートナーであり、政府は緊密に協力しています。ここでは、協力の例として国連革命、世界の軍縮、開かれた世界貿易体制を挙げるにとどめます。しかしその協力関係は、政府間の協力をはるかに越えたものです。両国の市民社会は、緊密な交流のネットワークを築いています。ドイツ人と日本人は、今後も互いから学び、ともに学んでいくことでしょう。少子高齢化にはどう対処していけばよいか。経済活動を行うにあたり、繁栄が次世代の生活基盤を壊さないためにはどうすればよいか。いかにして近隣諸国や世界と平和に共存していけるのか、等について学んでいくでしょう。

節目の年が、これまでも振り返るとともに、将来を展望する機会となることが望まれます。多くの行事で「神々の美しい火花」に魅了され、協力に加わる人の輪がさらに広がることを願います。私自身も、ドイツであれ日本であれ、行事への参加を大変楽しみにしております。

会員の広場

若者の会とドイツ

善通寺市 大久保あい

香川日独協会若者の会（Junge Gemeinschaft Kagawa）は、平成19年7月に結成され、それから早くも4年が経とうとしております。初めは手探り状態で、とにかく色々な事にチャレンジしてみよう、をモットーに活動を進めてきました。その中から自分達が出来ることを見つけ出し、徐々に自分達らしい活動内容になってきたのではないかと感じる今日この頃です。特に活動の中心となっているのが Stammtisch で、ドイツに興味を持つ若者が交流できる絶好の場となっています。Stammtischでの交流を通して、様々なメンバーに出会い、色々な刺激を受けました。ドイツに行く機会がなくてもドイツに関わっていたいという気持ちは皆同じで、ドイツ語の勉強を続けたり、ドイツ料理



にチャレンジしたり、香川県在住のドイツ人を探したりなど、それぞれがそれぞれのスタイルで努力し続けています。こうし続けることは、ドイツでお世話になった方々や友人との関わりを絶やさないためでもあるし、また、関係をさらに深めるためでもあると思います。大学1年生の夏、私が初めてドイツに行った時には、ドイツ語が出来ず、英語でホストファミリーと意思の疎通を図りました。その家族のお父さんとお母さんは英語が苦手だったので、殆ど身振り手振りで会話をしました。その後、ドイツ語の勉強を始め、二回目、三回目に会いに行った時にはドイツ語で会話をすることができ、お互いにより一層理解し合う事ができました。次に会う機会があるならば、、、と考えると、ドイツ語を忘れてはならないと思うし、ドイツにアンテナを向けていなければならないとも思います。

今年1月、JGKの主要メンバーを中心に、今後の活動について話し合う機会を持ちました。役割分担なども再編成し、活動をスタートさせております。今後も、自分達の出来る範囲内で、自分達らしくドイツと関わっていければ幸いです。

今年1月、JGKの主要メンバーを中心に、今後の活動について話し合う機会を持ちました。役割分担なども再編成し、活動をスタートさせております。今後も、自分達の出来る範囲内で、自分達らしくドイツと関わっていければ幸いです。



大使栗林公園案内

会員の広場

ドイツ兵俘虜と日本

丸亀ドイツ兵俘虜研究会

大西伯冶

第一次世界大戦時に、当時ドイツの租借地であった中国山東半島青島での戦闘で、4700人を超えるドイツ軍兵が日本軍の俘虜となり、全国12か所の収容所へと送られたのである。彼等はそれから約5年の間、収容所における生活を体験することになるのだが、多くの俘虜が、収容中あるいは収容後、日本の農業、牧畜業、手工業、機械工業やスポーツ、音楽の振興に大いに貢献した。よく知られた人では、ベートーベンの第九交響曲の日本初演を指揮したH・ハンゼンや丸亀収容所でオーケストラ活動を指導したP・エンゲル、日本人女性と結婚して高松に住み、大学で英会話の講師を務めたT・ヘルトレ、ドイツ菓子店を開店し、バウムクーヘンを販売したC・ユーハイム、山梨県でワイン醸造をしたH・ハム、銀座にレストラン「ローマイヤー」を開き、ロースハムの考案者であるA・ローマイヤー、菊池寛の「恩讐の彼方に」等を翻訳したA・シュパン等々、紹介するのに枚挙にいとまがない。

そういった俘虜のなかで、特異な体験をしたのがJ・バルトである。彼はベルリンに本社を置く貿易会社アルンホルン・カルベルク商会の広東支社に勤めていたが、開戦とともに徴兵され、青島の戦いで俘虜となり丸亀収容所に収容された。終戦後一時帰国したが再び来日し、東京で貿易商となり、千代夫人と結婚した。昭和16年（1941）に商用のためシベリア鉄道でドイツへ向かう途中独ソ戦に巻き込まれ、ソ連で再び俘虜となるのである。しかし民間人であったためまもなく釈放され、なんとかドイツに帰還した。昭和20年（1945）には特殊任務を帯びて、日独間を往復していた潜水艦イ29号で日本へ向かった。偶然シンガポールからは軍用機に乗り換え、日本へ向かったが、乗っていた潜水艦はその後アメリカ軍の駆逐艦攻撃で撃沈している。終戦後アメリカ進駐軍により財産は没収、ドイツへ強制帰国させられた。5年後四度目のたび来日し、以後終生鎌倉に住んだのである。

「鎌倉時代の歴史と文化」や「極東のドイツ商人」、「青島日記」などを著し、ドイツ東洋文化研究会の副会長を務め、日本の文学界に貢献した。

戦争という不幸な事実はあったが、戦前・戦中・戦後を通じて、ドイツと日本の関係はお互いに憎み合うものではなかった。そして今も最も親しく、尊敬する国の一つである。



ミュラー領事一家による俘虜墓地の墓参（丸亀軍人墓地）

会員の広場

丸亀から坂東俘虜収容所へ

丸亀ドイツ兵俘虜研究会 大西伯治

ベートーベンが作曲した交響曲第九番「合唱」、この曲が日本で最初に演奏されたことで、一躍有名となったのが、徳島県鳴門市内にあった坂東俘虜収容所である。この収容所に収容されていたドイツ兵は、もとはといえば徳島・松山・丸亀の各収容所にいた俘虜達である。ではなぜ坂東へ集められたのか。その原因をつくったのが丸亀に収容されていた一俘虜にあることを知る人はそう多くない。

丸亀に収容された324人の俘虜の一人にDr. Siegfried・ベルリーナという者がいた。彼は開戦時まで東京帝国大学法科の教師として、夫人アンナと共に日本で比較的恵まれた生活を送っていたのである。ところが第一次世界大戦が始まると応召、中国の青島で従軍することになり、約3カ月の戦闘の結果、日本軍の俘虜となった。収容されたのは現在の丸亀市にある本願寺塩屋別院の本堂、300人がすし詰め状態で寝起きさせられた。夏は暑く、冬はすきま風が安眠を妨げる。悪臭が漂い、蚊や蠅に悩まされた。そうした生活に辛抱できなかったベルリーナは、丸亀市新浜町に借家し、度々面会に訪れていた夫人アンナに対し、内密の告発書を託したのである。託されたアンナは、その後この告発書をもって当時中立国であったアメリカに渡った。告発書はドイツ領事館を経て本国に送られたのである。その結果、ドイツはアメリカに対して実態調査を依頼し、1916年3月、在日アメリカ大使館の書記官、サムナー・ウェルズは全国11収容所を視察して、その実態を調査し、報告した。調査の結果、徳島と丸亀は

概ね良好との評価があったが、俘虜達の一番の不満は大勢による雑魚寝生活であったため、坂東では二人一室とした長屋形式の施設が新設され、3つの収容所がここに統合されることになったのである。これを坂東ではバラックと呼んだ。



写真は鳴門ドイツ館提供

会員の広場

BMW異聞

—名車そっちのけのドイツ作曲家論—

高松市

近藤昌紀

本年2011年2月11日の香川日独協会春を呼ぶ会で、筆者は「『ドイツ語圏音楽』と『ドイツ音楽』は厳に峻別せよ！」すなわち、

(ドイツ語圏音楽) — (オーストリア・ハプスブルク帝国音楽) = (純正ドイツ音楽)
と論陣を張ったことをご記憶であろうか？

「ドイツ語圏音楽」とは、アルプスから北、フランスから東、チェコから西、そして東方教会の影響を受けていない地域の音楽、と筆者は定義している。この中で、上記「純正ドイツ音楽」の公式に当てはまる作曲家というのは思ったよりも少ない。

ドイツ出身の作曲家と言いながら、ゲオルク・フリードリッヒ・ヘンデルは英国に渡ってジョージ・フレデリック・ハンデルとなり、ウエストミンスターに眠る。ベートーベンやブラームスは「ドイツ3大B」と称えられながら、骨を埋めたのは奥・ウィーン中央墓地である。

因みに、ベートーベンフルネームを正調ドイツ語で記すと“ルートヴィッヒ・ファン・ベートーフェン (Ludwig van Beethoven)”となるが、この「ファン」が怪しい。純正ドイツ人ならヘルベルト・フォン・カラヤン(指揮者)、ヴェルナー・フォン・ブラウン(ロケット開発者)の慣い通り、「フォン(von)」が付くはずで、「ファン(van)」が付くのは画家ファン・ゴッホ(Vincent van Gogh)、ヴァン・ダイク(Anthony van Dyck)の例を見れば分かるようにネーデルラント、フランドル系の名前だ。ベートーベンの場合、生地がライン川下流、オランダにごく近いボンであることからしても、筆者はこの人はオランダ系と見ている。

ハイドン、モーツァルト、シューベルトは、オーストリアで生まれ、オーストリアで死去。

こう考えると、ドイツで生まれてドイツで骨を埋めた作曲家、オーストリア・ハプスブルク帝国の息がかかっていない、生粋のドイツ国民主義的音楽家というのは、消去法的に行けば、以下に収束する。名付けて『BMW・RS』。バイクマニアには垂涎の、ドイツBMW社が誇るレーシングスポーツタイプのバイクと同名になったが、その正体は、B=バッハ(一族)、M=メンデルスゾーン(ただし、この人は出自がユダヤ人ということで、ナチス時代には演奏禁止措置を食らった。)、W=ワーグナー、R=リヒャルト・シュトラウス、S=シューマン。

それにしても、ワグネリアンの団結のすごさよ。阪神タイガースファン並みだ！当日、筆者が「ドイツ・ゲルマン民族主義音楽の帝王と自他ともに認める、“私が愛してやまない”リヒャルト・ヴァーグナー」と熱き形容詞を付け加えただけで、席に戻った後、あたかも隠れキリシタンが名乗り出て告白するが如く、男女各1名のワグネリアンが筆者の席におでましになり「神への愛」に匹敵する「ヴァーグナーへの愛」を告白された。このようなときに筆者が話題に出すのが、ドイツ語圏音楽の水戸黄門一行、名付けて『BMW』。またもやBMWか！と言われそうだが、こちらのBMWは、B=ブルックナー、M=マーラー、W=ヴァーグナー。もちろん、水戸黄門はヴァーグナーで、角さん・助さんはブルックナーとマーラー、うっかり八兵衛は、妻コジマ(今年生誕200年のリストの娘でもある。)を寝取られてもヴァーグナーにへばり付き続け、それなりの名声を得た指揮者ハンス・フォン・ビューローあたりか。名車BMWの名が出たついでに、ここで苦言をひとつ。日独協会会員諸氏ならば、BMWをビー・エム・ダブリュー、それも略してビーエムなどという、町をうろつくお兄さんが言うような品のない呼び方はお止めいただいて、ドイツ車はドイツ車らしく「ベー・エム・ヴェー」と真つ当なドイツ語読みで呼んでいただきたい。(「ベムヴェー」と縮めると言い易い。)

会員の広場

MB クラシックセンター

坂出市 武部裕光

シュツットガルト中央駅近くの今は都心部では地下を走るシュトラセンバーンの駅シャルロテンプラッツから、U1の路線でのろのろと30分くらい走った終着フェルバッハ駅の近くに、メルセデスベンツ クラシックセンターがあります。クラシック音楽の国ドイツとはいえ、クラシックセンターといっても音楽には関係ありません。ここはメルセデスベンツ社が直接経営する古い車のレストア（古い車を修理して新品の状態に戻す作業）とその製品の販売をする部門です。扱うのは1970年以前に生産されたメルセデスベンツのすべての車種で、乗用車、バス、トラック、軍用車両まであります。



クラシックセンター



建物に入るとそこにはベンツに関するグッズを販売するショップがあります。その奥に進むとレストア済みの新車？のショールームで値札がついていました。まあ、値段はちょっと現実的ではありませんが。例えば石原裕次郎が所有していた車と同じの1959年製300 S Lロードスターは税抜きで31万ユーロです。付加価値税を入れれば日本円でいくらでしょうか。

ショールームに続く奥には工場があり、自由に見学することができます。ドイツの工場では日本の医者

の白衣のような作業衣を工員がきていますが、個々の工場の工員さんたちは大変気さくで車好き、いろんな話をしてくれました。ヨルダンの国王は古い車好きで常にレストア中だそうで、今発注しているのは軍用水陸両用車だそうです。また、大きなプルマンリムジンは2台ペアでレストア中でしたが、なんと元の所有者は毛沢東だったそうで、香港の富豪が買って、ここにレストアを注文したそうです。レストアは徹底的に行われています。すべての部品が分解され、車はシャーシーだけになり、鉄が腐食していれば溶接して補修し、まったく最初から昔の部品をうまく使って新しい車を作る様なものです。

実は私も古い車が大好きで、今も愛用しているワゴン車は平成3年3月に購入したもので、20年が過ぎました。香川日独協会と同一年です。購入時にいろいろオーダーして約1年待って納車されましたので、思い入れが強く手放せません。日独協会30周年の時にもまだ愛用しているでしょう。



会員の広場

私の日独交流

丸亀市 田村慶三

私が住んでいる丸亀市は、ドイツとの間に歴史的なつながりを持っています。それは、今からおよそ百年前、第一次世界大戦の時に、中国のチンタオで捕虜となった300人余りのドイツ兵が、2年半の間丸亀の俘虜収容所で暮らしていたということです。収容所に使われたお寺の本堂は、ほとんど当時の姿のまま今も私の家の近くに建っています。私は友人と一緒に、丸亀でドイツ兵俘虜たちがどのような生活を送ったのか、丸亀にどのような影響を残したのか、といったことを研究しています。

数年前のことですが、我々の研究活動のことを、私は市内に住んでいて親しくなったドイツ人の牧師さんに話しました。彼は、その後ドイツに戻ってマールブルク大学で神学の勉強を続けていたのですが、大学にある日本研究センターの教授たちに、私たちの活動について話をしたようです。すると、教授の一人から私に、日本に行く機会があるので、丸亀をぜひ案内してほしいとのメールが届きました。私はその教授と会い、俘虜収容所だった寺院や、俘虜が散歩でよく訪れサッカーに興じた中津海岸、収容中に亡くなったドイツ人兵士の墓などを案内し、私たちが集めた史料や写真をお見せしました。教授は、たいへん興味を示され、私たちの研究が、日独交流のために意義深いことだと評価してくれました。そして、お土産に丸亀特産のうちわを差し上げたところ、ドイツに帰国された後、うちわを日本研究センターの正面玄関にある陳列ケースに展示してくれているという手紙を、陳列ケースを写した写真と一緒に送ってくれました。私たちのささやかな研究が、このような形でドイツの人たちとの交流に結びつき、大変うれしく思いました。郷土の歴史の1ページであるドイツ兵俘虜収容所に関する史実を大切に記憶に留め、ドイツの人たちとの交流にも活かしていけたらと思っています。

会員の広場

ドイツと私と合気道

高松市 西原浩

私は昭和50年から合気道を始め、現在香川大学合気道部顧問として、また香川合気会（旧高松市合気道協会）の指導者として週2、3回、学生、社会人、子どもたちと一緒に稽古を続けています。平成7年から平成8年まで文部省在外研究員としてドイツのシュトゥットガルト大学で研究する機会を与えられ、単身で9ヶ月ドイツに滞在しました。研究の傍ら、ドイツでも合気道をする機会を得ることができました。シュトゥットガルトからICEで数時間かけてデュッセルドルフの合気道師範を訪れ、ドイツの合気道についていろいろと伺いました。そしてシュトゥットガルトでの道場を紹介され、そちらで週2、3回稽古をさせていただくことになりました。一つはシュトゥットガルト大学の中にあり、大学のクラブのようでしたが、稽古している年齢層は様々で、教授の様に見える人に聞いてみると学生とのことでした。もう一つはシュトゥットガルトの近郊にある体育館で、指導者が車で送迎してくれました。合気道に国境はなく、本当に暖かく迎えてくれましたので、単身でのドイツの生活に潤いを感じることができました。その時一緒に稽古したドイツ人は、精神の安定性を得られることが合気道の魅力であると言っておりました。

昨年7月に、シュタンツェルドイツ大使が高松にお見えになり、講演をしていただきました。大使は30年以上合気道をしているということで、私に取って親近感が大きく感じられました。本年1月には（財）合気会本部道場の新年賀詞交換会に大使が来賓としてお越しになり、その時少し歓談をすることができました。また本年1月に発行された雑誌「合気道探求第41号」（出版芸術社）に大使と合気道道主の対談「お互いに活かしあう姿勢」が掲載されました。大使の合気道の経歴や合気道に対する思いがその対談に詳しく掲載されております。大使は若い頃、来日して鹿児島から京都までヒッチハイクをしたそうですが、最初に車に乗せてくれたのが宮崎の合気道の指導者で、合気道の独特の動きに興味を惹かれたそうです。合気道の動きに加えて精神性もドイツで合気道が広く受け入れられている理由のようです。雑誌には大使が若い頃合気道を指導している写真も掲載されていますので、是非ご覧いただければ幸いです。「和の武道」と言われる合気道を通して日独友好の輪がさらに広がることを念願しております。

合気道には試合がなく、試合によって勝負を決したり、優劣を競うものではありません。また徒に腕力に頼るのではなく、自身の持っている力を最も有効に使い、相手に伝えるのが肝要で、年齢や性別に関係なく万人ができる心身鍛錬の武道です。香川県立武道館（競輪場横）で毎週木曜日と土曜日の夜、稽古をしておりますので、興味のある方は是非覗いてみて下さい。



シュタンツェル大使と著者

会員の広場

ケーテンのバッハ音楽祭

高松市 乗松達郎

ケーテンはバッハがワイマールで9年、ライプツィヒで26年の仕事の間に6年間この宮廷音楽監督として過ごした、昔も今も小都市ながら小綺麗な感じの町。ライプツィヒから車で1時間の距離。2年毎にバッハ音楽祭があり内外の多くの人が集まる。2008年9月の音楽祭に出席したことは今も楽しい思い出である。

ケーテン在任中バッハは宮廷内の事情から宗教音楽よりも世俗音楽の名曲を数多く作った。ブランデンブルグ協奏曲、平均律クラヴィーア曲集第一など。

旅は先ず夏の祭り最中のハンプルクに立ち寄り、クルト・マズア指揮でNYフィルのメンデルスゾーン、チャイコフスキーを聴く。花火は華麗に惜しみなく打ち上げられた。ライプツィヒで5泊して7回コンサートを楽しむ。近くのハレはヘンデルの出身地、個人訪問で彼のゆかりの施設を訪ねる。ハレで中部ドイツ祭りがあり、音楽と踊りの舞台を見ていると、露出過剰な魅力十分な踊り子さんたちが舞台を降り、われわれのすぐそばを通り一驚。

ライプツィヒではバッハが音楽監督の任にあった聖トーマス教会を2度訪れ一度は満席の礼拝の隅に幸い席を得て彼の音楽にひたった。

ケーテンの音楽祭は聖ヤコブ教会、ケーテン宮のバッハホール、同じく鏡の間で演奏家の人数により使い分けられる。ヨハネ受難曲は聖ヤコブ教会。この時ドイツ婦人から、今秋日

本を訪れて
京都・奈良
に行くのが
楽しみと話
される。ア
ンジェラ・
ヒューイツ
トの平均律
ピアノ曲は
鏡の間で2
メートル横
の近くから
耳と目で至
福の時を得
たのは一番
の思い出と
なる。写真



ライプ

ツィヒにはこの地で学半ばで病いに倒れ帰国した、レントロー・タキの寂しい表情のプロフィル像が建っていた。

会員の広場

慶応大学「ドイツ文化研究会」の思い出

高松市 向井攻一

私にとって、東京オリンピックが大学2年生の時でしたので、高度成長時代が青春であったということになります。

この頃、まだまだ、外国は遠かったのですが、なぜか高校生の頃から、ドイツに憧れていましたので、大学に入ってから最初の2年間、第2外国語を、ドイツ語かフランス語かでクラス分けされましたが(隣のクラスに「小沢一郎氏」がいました。)、迷わず、ドイツ語を選びましたし、またクラブ活動も趣味だけでなく、語学の成績も良くなるという実益を兼ねて「ドイツ文化研究会」を選びました。(東京の日独協会本部常務理事の金谷誠一郎氏は同期の会員でした。)

この会での思い出には、ドイツ語とは関係なく、ダンスをおぼえて、女子大とのダンパンに参加するなど、いろいろと勉強以外のことを先輩から教えられましたが、まじめな活動もありました。

なぜか、私は、この会の上部団体の「関東大学ドイツ研究会連合」への出席責任者にならされ、その関係で、年に1度の大学対抗ドイツ語弁論大会に出席させられることになりました。

レベルが3段階あり、私が参加するのは初歩の部で、ただ、ある作品を丸暗記して話すだけの部門でした。

それでも、慶応が入賞できるのはこのレベルしかないと、先輩たちが、一夜漬けの丸暗記に協力してくれましたが、中でも、明治の元老西郷従道のひ孫に当たる先輩の家に呼ばれた時の思い出は忘れられません。

迎えの車が来てくれ、車寄せのある大きなお屋敷に着くと、映画に出てくるような応接間に通され、当時珍しかった、テープレコーダーを使って、発音の練習から教えていただきましたが、田舎者のこの学生は、周りの調度品や、おいしいお菓子、きれいな女中さんに緊張して、集中できないのを気遣って、「この機械を持って帰って、模範の発音を繰り返し勉強してきなさい。」と言われた時は、「助かった。」と、ほっとしたのを懐かしく思い出されます。

———天文台に高名な気象学者がおり、その先生の天気予報がよく当たるので有名でしたが、あるときなかなか発表がないので、どうして発表が遅れているのですかと質問された時に、ふっと漏らしてしまった言葉、「マイン ラーヂオ イスト カプット (kaputt,壊れている)」でオチになる内容でした。———

第4位に入賞し、マーマーの成績で母校の栄誉を傷つけずに、ほっとしたのを思い出します。

これを期に、みんなが私に一目置くようになりましたし、自分も益々、ドイツ文化が好きになって、ドイツ語の成績も益々よくなったことは、言うまでもありません。(常務理事の金谷さんに聞いて下さい。いや、ほんと。)

会員の広場

ドイツのここが好き

多度津町 村井信之

ドイツ国歌冒頭の「世界に冠たるドイツ」(Deutschland über alles in der Welt) (但しこの一番の歌詞部分、ご存知の様に大戦後は歌唱禁止です)の言葉に相応しい分野といえ、医学・哲学・音楽など様々な分野が次々と挙げられると思います。嘗て私の職業であった化学の分野も紛れも無くその一つでしょう。

例えば、日本人誰でも使っているナトリウムやカリウムなどの化学名の大部分は、殆どが英語ではなくドイツ語に由来するものです。私の専門分野だった合成化学の分野に登場する反応名、Diels, Alder, Wittig, Wagner, Meerwein, Ziegler, Schmidt などなど過半数はドイツ人化学者に由来するものであり、過去において如何にドイツが化学の発展に貢献してきたかを物語るものです。化学産業発展に多大な貢献をしたBASF, BAYERなどの企業を擁しています。

なぜ、ドイツ人が化学の分野でも素晴らしい足跡を残せたか、私のささやかな経験から憶測してみますと、ドイツ民族固有の「徹底したこだわり」意識にあるのではないかと考えます。

学生時代・企業人時代に、化学に関する多くの学術文献や特許、企業内の技術報告書を読む機会がありましたが、ドイツ人の書いたものは、他国人のものと比較して、圧倒的に分厚く詳細で懇切丁寧、そして自信と誇りを感じさせてくれるものでした。その徹底的な論理主義・検証主義に圧倒されながら、襟を正して読み解き、自分の仕事上の模範としてまいりました。

昨年話題となったノーベル化学賞受賞など、近年日本人の受賞者も増え、日本の化学もドイツ国を初めとする先輩諸国と同レベルに到達したようですが、少なくとも「徹底したこだわり」意識の点では、日本人は未だ未だ足元に及ばない筈です。

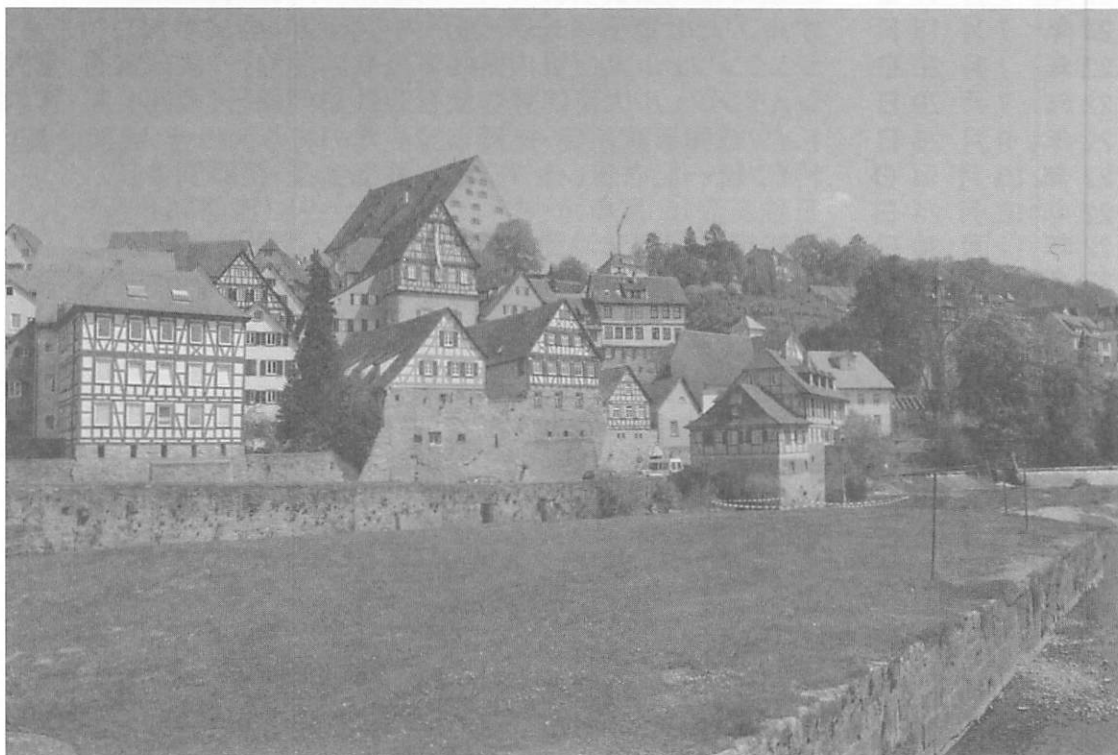
私は、そういう良き先輩であるドイツ人の気質に大いなる敬意、そして好意を寄せ続けております。

総会資料

総会日程表

2011年5月15日

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議案審議
 - 1号議案 平成21年度事業報告者承認の件
 - 2号議案 平成21年度収支決算書承認の件、監査報告
 - 3号議案 平成22年度事業計画（案）承認の件
 - 4号議案 平成22年度収支予算承認の件
 - 5号議案 役員選任の件
4. 報告事項
5. 閉会



Schwäbisch Hall

総会資料(2010年度事業報告)

総 括

2010年4月～2011年3月

主催行事

平成 22 年 5 月 17 日	定例総会	60名
平成 22 年 5 月 16 日	ビーダーマン副総領事講演会	60名
平成 22 年 7 月 20 日	シュタンツェル大使講演会	232名
平成 22 年 7 月 31 日	ドイツビールを楽しむ会	25名
平成 22 年 10 月 24 日	オクトーバーフェスト（ドイツワインを楽しむ会）	40名
平成 22 年 11 月 23 日	総領事館訪問、大阪クリスマスマーケット参加	27名
平成 22 年 12 月 11 日	クリスマス行事（アドベントカフェ）	29名
平成 23 年 2 月 11 日	春を呼ぶ会（ドイツ料理を楽しむ会）	27名

その他行事（会長・他）

平成 22 年 4 月 11 日	日独協会連合会「若手会員の集い」（東京）中尾理事出席
平成 22 年 4 月 12 日	全国日独協会連合会総会（東京）武部会長出席
平成 22 年 5 月 16 日	ビーダーマン副総領事栗林公園観光同行（若者の会）
平成 22 年 5 月 17 日	ビーダーマン副総領事知事表敬同行（武部会長・向井副会長）
平成 22 年 5 月 17 日	ビーダーマン副総領事榊タダノ訪問同行（武部会長・向井副会長）
平成 22 年 5 月 22 日	神戸日独協会創立50周年記念式典 武部会長出席
平成 22 年 6 月 22 日	高松市内国際交流団体情報交換会 西原副会長出席
平成 22 年 7 月 17 日	全国日独協会会長会（ドイツ大使公邸）武部会長出席
平成 22 年 7 月 18 日	オルブリッヒ総領事来県（瀬戸内芸術祭開会式参加）
平成 22 年 7 月 20 日	シュタンツェル大使香川県知事表敬訪問同行（武部会長・宮内理事）
平成 22 年 7 月 20 日	シュタンツェル大使四経連会長表敬訪問同行（武部会長・宮内理事）
平成 22 年 9 月 20 日	ドイツ総領事館訪問・総領事館見学の打ち合わせ（武部会長）
平成 22 年 10 月 4 日	ドイツ統一記念日レセプション（武部会長・西原副会長）
平成 22 年 10 月 23 日	日独交流150周年オープニングコンサート（西原副会長）
平成 22 年 11 月 30 日	高松市内国際交流団体情報交換会（西原副会長出席）
平成 23 年 1 月 4 日	日独交流150周年記念式典（武部会長）

会 議

平成 22 年 4 月 29 日	第1回理事会	会計監査
平成 22 年 6 月 13 日	第2回理事会	
平成 22 年 7 月 8 日	大使講演会実行委員会	
平成 22 年 8 月 29 日	第3回理事会	
平成 22 年 12 月 5 日	第4回理事会	

総会資料(2010年度事業報告)

定例総会開催

2010年5月16日

平成22年5月16日、香川日独協会総会が全日空ホテルクレメント高松において開催されました。向井副会長の開会の辞の後、武部会長は挨拶の中で、昨年の総会で会長にご指名を戴きよちよち歩きで始まった執行部でありますが、会員の皆様のご協力を戴き無事1年間の活動を行うことができ有難うございました。特に昨年度は協会行事に多くの参加を戴き、一昨年度に比べて、参加者が約30%増加致しました。今年度も会員の皆様が多く参加して戴けるような行事を企画していきたいと思ひます。皆様のご協力をよろしくお願い致します、と述べました。そのあと議案審議に移り



1号議案 平成21年度事業報告書承認の件

2号議案 平成22年度収支決算書承認の件、監査報告

3号議案 平成22年度事業計画(案)承認の件

4号議案 平成22年度収支予算(案)承認の件
が満場一致で承認されました。



5号議案 役員人事については、会長から会計担当理事に三谷裕子会員が推挙され満場一致で承認されました。

総会資料(2010年度事業報告)

ビーダーマン副総領事講演会開催

2010年5月16日

香川日独協会総会に引き続き、午後5時30分より、昨年7月に赴任された駐日ドイツ連邦共和国総領事館副総領事シュテファン・ビーダーマン氏による講演会「ヨーロッパにおけるドイツ人として一自らの経験を語る」が開催されました。



副総領事の経歴紹介の後、総領事館飛鳥井たまき翻訳官の通訳を交え、講演が行われました。講演では、EU設立に至った経緯と目的がご自身の体験を交えながら、熱く語られました。EUは国境、宗教、イデオロギーなどを巡り起こった対立や悲慘な戦争を二度と起こさないとの誓いから設立されましたが、今なお戦争と暴力が絶えない現在の世界で多くの民族が平和裡に共存し、生存環境を維持することが可能であることを証明する歴史的な大実験であると訴えられ、多くの聴衆に深い感銘と共感を与えました。



総会・講演会に引き続き、懇親会のスタートとなり、武部会長の挨拶、そして来賓の香川県知事公室長川池秀文様、高松市長大西秀人様より挨拶の言葉を戴きました。中村名誉会長の乾杯の音頭ののち、お楽しみのドイツ料理とドイツ銘醸ワインがふるまわれました。さらに、県下でご活躍の大山晃様のバリトン独唱、

伴奏は奥様のまゆみ様、心を震わせる、深く厚みのある歌声が会場に響き渡り、美味しいお料理、ワイン、音楽とまさに五感に訴える至福



の時です。この後、ブラームスの「日曜日」は、全員に楽譜が配布され、大山先生のご指導のもと合唱いたしました。



総会資料(2010年度事業報告)

シュタンツェル大使講演会開催

2010年7月22日

近年にない猛暑の7月20日、駐日ドイツ連邦共和国特命全権大使 Dr. フォルカーシュタンツェル閣下が来県されました。公式行事として香川県知事表敬訪問、四国経済連合会会長表敬訪問、その後、香川日独協会若者の会メンバーと共に栗林公園を観光され、かがわ国際会議場にて「今後の日独関係への考察」と題して講演されました。



空路高松へ到着されたシュタンツェル大使は、出迎えた武部会長、宮内理事の案内で香川県庁を訪問されました。公式の挨拶以外はすべて日本語で会話され、スイスに駐在の経験のある真鍋知事とは話が弾みました。その後、シュタンツェル大使は四国電力本社内にある四経連を訪問し、会長の常盤百樹氏と会見されました。常盤会長は昨年訪問したドイツの話を交え、ドイツへの親近感をお話しになりました。シュタンツェル大使は、多忙なスケジュールのなか栗林公園を観光され、武部会長及び向井副会長、そして日独協会若者の会メンバー5名も同行しました。

瀬戸内海の展望が開け、当日は特に夕日の美しいかがわ国際会議場で開催され、演題は「今後の日独関係への考察」でした。200名超の会場を埋めつくす聴衆を前に、過去の日独関係の発展の歴史を踏た今後の交流の取り組み方と展望について興味深い講演をされました。戦後の両国の発展プロセス



は似通っており、他国との関係と比較して経済的交流よりも学術的交流が盛んであったことが大きな特徴として挙げられました。そしてさらに国と国よりも人と人との交流があったことは、現在のような信頼関係を築く礎となり、環境問題、資源安定供給などの複雑な問題を解決する重要な要素であると示唆されました。市民ひとりひとりの取り組みにかかっている市民レベルでの両国の真の交流は、来年の日独交流150周年が良い契機になるだろうという大きな期待での講演のしめくくりです。一貫してソフトパワーの重要性和両国の類似性、日本への敬意と愛情を表現する大使のご姿勢には、香川日独協会として大いに励まされる一日となりました。



総会資料(2010年度事業報告)

ドイツビールを楽しむ会開催

2010年7月31日

香川日独協会恒例の Sommerfest・「ドイツビールを楽しむ会」が平成22年7月31日(土)午後7時より、リーガホテルゼスト高松 屋上スカイガーデンにおいて、多数の会員参加のもとに開催されました。

武部会長のあいさつ、乾杯の音頭で待望のビールの会が、日本語とドイツ語で「乾杯!」「Prost!」「zum Wohl!」と、参加者思い思いの言語が飛び交う中、懇親の宴が賑やかに始



まりました。今年の夏は近年にない猛暑のため、会場は満員の盛況となっており、特にビールは格別においしく感じられ、つつい飲み過ぎてしまいました。

ホテルの用意するビールは、Löwenbräu (レーベンブロイ) 以外に、日本、ベルギー、イングランドなど、国際色豊かなビールが楽しめるため、人気があるようです。

そうこうするうちに、ゾマーフェストも、あっという間に予定の2時間が過ぎ、武部会長の中締めで盛会のうちに終了しました。



総会資料(2010年度事業報告)

オクトーバーフェスト開催

2010年10月24日

昨年に引き続き、ドイツ銘醸ワインによるオクトーバーフェストが、10月24日（日）午後6時半よりリーガホテルゼスト高松レストラン時香にて開催されました。向井副会長の進行のもと、武部会長によるあいさつ、そして多田野顧問のユニークな乾杯の音頭でスタートした会は、まず音楽か



ら。近藤会員からの興味深い紹介で演奏してくださった今回のゲストは、香川を代表するパーカッショニストとピアニスト、何森博子氏、森ゆき子氏、佐々木千文氏です。そして、料理長からのドイツ料理解説



ののち、シニアソムリエ 高橋有紀氏による今日のワイン解説とさらに親しみやすいワインにまつわるお話です。今回のテーマはワインとお料理のハーモニーでしたので、お料理をより引き立てるワインが次々にサーブされました。モーゼル地方の辛口白ワイン、ライ

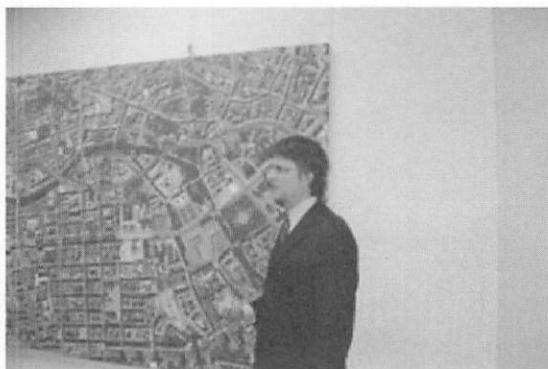


ンガウ地方のやや辛口白ワイン、ファルツ地方の赤ワイン、そしてデザートのアップルクーヘンとともに食後酒のサワーチェリーリケールを堪能しました。会場では4名の方が新入会員にお申込みいただくなど大変和やかに楽しく盛り上がり、ワインの酔いも冷めやらぬまま、名残惜しくも西原副会長のあいさつでお開きとなりました。

総会資料(2010年度事業報告)

総領事館訪問・クリスマスマーケット参加

2010年11月23日



11月23日、坂出、高松を出た大型観光バスは27名の参加者を乗せて、一路大阪市北区の大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館に向いました。ビーダーマン副総領事がお忙しい執務の時間を割いて、圧巻の展望を誇る執務室のご案内、副総領事としての日常業務やこれまでの各国での任務、ドイツ外務省のこと、そしてプライベートに至るまで質疑応答を受けながら興味深いお話を繰り広げ

ていただきました。通訳は飛鳥井たまき翻訳官でした。領事館訪問後クリスマスマーケットに移動し、駆けつけてくださった大阪日独協会の和田事務局長をはじめ同協会の会員の有志の皆さんとグリューワイン（ホットワイン）片手に歓談したり、世界最大のクリスマスツリー点灯に歓声をあげ、また商品のみならず資材に至るまで全て本国からの輸入という本場のマーケットで買い物を楽しみました。時間とともに暗くなりイルミネーションがますます



美しくなってきましたが、名残惜しくも18時のバスで無事、帰路につきました。

ビーダーマン副総領事をはじめご案内いただきました総領事館の皆さま、そして交流にお集まりいただきました大阪日独協会の和田事務局長をはじめ皆さまに心より御礼申し上げます。

総会資料(2010年度事業報告)

アドベントカフェ(クリスマス行事)開催

2010年12月11日

香川日独協会若者の会主催による、今年もお楽しみのクリスマス行事がアイパル香川にて開催されました。ゴスペル演奏、そして素敵なオカリナ演奏を楽しみつつ、ドイツ菓子とお茶で豊かで温かいクリスマス前のアドヴェントの時間を過ごしました。



プレゼント交換会ではわくわくドキドキ・・・！会場周囲に施された装飾も手作り、静謐でぬくもりのあるドイツのクリスマスをふっと思い起こさせる午後の時間となりました。



シュトーレンやクッキーもとても美味でした！！



総会資料(2010年度事業報告)

春を呼ぶ会開催

2011年2月11日

2月11日、正午よりリーガホテル高松、時香にて平成22年度春を呼ぶ会が開催されました。西原副会長の開会の辞より始まり、武部会長の挨拶では、本年の日独修好150周年記念行事の説明があり、今年はより盛りだくさんの内容に期待も高まります。

その後バリトンの大山先生とピアノ伴奏の佐々木先生によるドイツリート of 素晴らしい演奏を堪能したのですが、近藤会員の含蓄のある演奏者紹介及びバッハ解説が演奏をより奥行きのあるもへと導いたのは言うまでもありません。

中村名誉会長の乾杯により始まったドイツ料理、ドイツワインも素晴らしく、リーガホテルの料理長様には心よりの御礼を申し上げます。最後はこの日の大雪も溶かすような春を呼ぶ暖かな交流で向井副会長の閉会の辞により名残りおしくもおひらきとなりました。



総会資料

2010年度決算書

(単位:円)

I 収入の部		II 支出の部	
会費収入		事業費	
普通会費(3000×97,1000×1,6000×1,10000×1)	308,000	年次総会費	352,620
夫婦会員(5000×23組)	110,000	理事会	0
学生会員	2,000	ドイツ大使講演会(懇親会費含む)	339,920
協賛会費(8社)	101,000	ゾマーフェスト	91,000
前受け金(1名)	3,000	オクトーバーフェスト費	177,626
会費収入合計	524,000	クリスマスイベント費	39,834
事業費収入		秋のバス旅行	146,713
年次総会費(懇親会費含む)	280,000	会報発行費(第15号)	69,300
ドイツ大使講演会(懇親会費含む)	180,000	ドイツ関連交流費	3,000
ゾマーフェスト	84,500	(ボン独日協会会長様へ切手帳)	
オクトーバーフェスト費	160,000	春を呼ぶ会	138,746
クリスマスイベント費	22,612		
秋のバス旅行	130,000		
春をよぶ会費	122,500		
事業費収入合計	979,612	事業費支出合計	1,358,759
助成金(県国際交流協会)	50,000	事務管理費	
雑収入		通信費	38,570
郵便局貯金利息	190	事務消耗品費	41,497
百十四銀行預金利息	184	年次総会関連費	20,120
香川銀行預金利息	123	手数料(会費振込料他)	14,650
雑収入合計	497	事務管理費合計	114,837
当期収入合計	1,554,109	当期支出合計	1,473,596
当期収支差額	0	当期収支差額	80,513
前期繰越収支差額	2,562,235	次期繰越収支差額	2,642,748
資産の内訳(繰越収支差額内訳)			
前期末残高(22.3.31)		当期3月末残高(23.3.31)	
現金	76,652	現金	0
郵便局振替口座	0	郵便局振替口座	498,030
郵便局郵便貯金	729,625	郵便局郵便貯金	729,815
百十四銀行本店普通預金	1,148,595	百十四銀行本店普通預金	807,417
香川銀行本店普通預金	607,363	香川銀行本店普通預金	607,486
資産合計額	2,562,235	資産合計額	2,642,748

会計監査報告

平成 年度収支決算書について、金銭出帳、預金通帳、領収書等と照合した結果、適正に作成されているものと認めます。

平成23年 4月17日

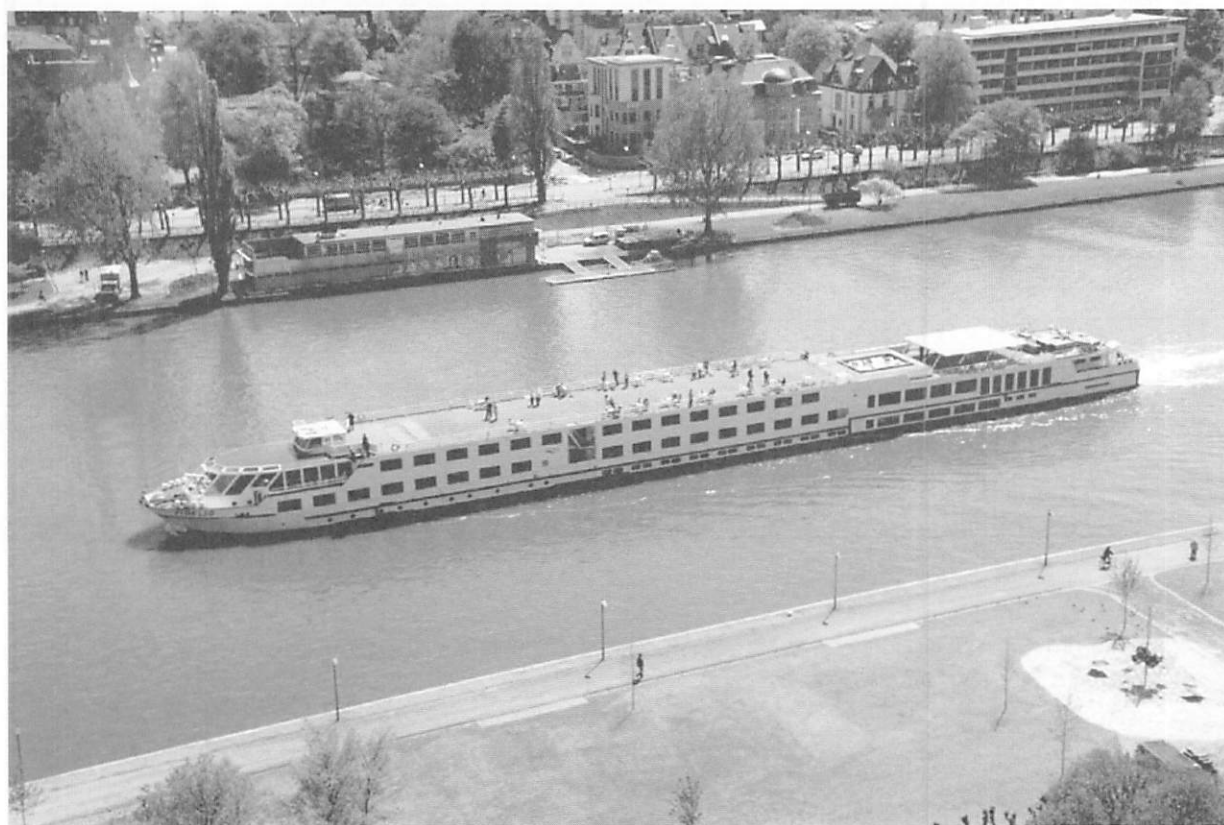
監事 大西 均 (印)

監事 古市 伯夫 (印)

総会資料

2011年度事業計画

- 2011 年 4 月 25 日 日独パートナー会議(奈良) 武部会長、西原副会長出席
- 2011 年 5 月 15 日 定例総会
- 2011 年 5 月 15 日 オルブリッヒ総領事講演会
- 2011 年 5 月 15 日 創立20周年記念式典
- 2011 年 6 月 9 日 日独交流150周年記念・ドイツと江戸の風景画展
オープニングセレモニー
- 2011 年 6 月 10 日 150周年記念美術展
～ 7 月 13 日 於:香川県立東山魁夷せとうち美術館
- 2011 年 7 月 月 日 ビアフェスト
- 2011 年 10 月 月 日 オクトーバーフェスト
- 2011 年 12 月 11 日 クリスマス行事(アドベントカフェ)
- 2012 年 2 月 11 日 春を呼ぶ会 (ドイツ料理を楽しむ会)



マイン川を遡上する大型観光船

総会資料

2011年度予算書

科 目	昨年度実績	本年度予算	予算差額	備考
I 収入の部				
1 会費収入				
普通会员	308,000	330,000	22,000	110名
夫婦会員	110,000	125,000	15,000	25組
学生会員	2,000	2,000	0	1名
協賛会員	101,000	110,000	9,000	9社
前受け金(平成23年度分)	3,000	0	0	
2 事業収入				
総会(懇親会)	280,000	280,000	0	56名 会費5,000円
ドイツ大使講演会(懇親会)	180,000	0	-180,000	
ゾマーフェスト	84,500	105,000	20,500	会費3,500円
オクトーバーフェスト	160,000	180,000	20,000	会費4,000円
クリスマスイベント	22,612	30,000	7,388	会費3,000円
秋のバス旅行	130,000	0	-130,000	
春を呼ぶ会	122,500	150,000		会費3,500円
日独交流150周年記念事業		200,000	200,000	
3 助成金(県国際交流協会)				
奨励金・助成金	50,000	50,000	0	
4 雑収入(利息)				
ゆうちょ銀行	190	200		
百十四銀行	184	200		
香川銀行	123	150		
当期収入合計(A)	1,554,109	1,562,550		
前期繰越収支差額(B)	2,562,235	2,642,748		
当期収入合計(A+B)	4,116,344	4,205,298		
II 支出の部				
1 事業費				
総会(懇親会)	352,620	380,000	27,380	76名
会報発行費	69,300	90,000	20,700	
理事会	0	0	0	
ドイツ大使講演会(懇親会費含む)	339,920	0	-339,920	
企画・情報・編集・JGK委員会	0	0	0	
ドイツ関連交流費	3,000	100,000	97,000	
日独交流150周年記念事業	0	200,000	200,000	
ゾマーフェスト	91,000	98,000	7,000	28名
オクトーバーフェスト	177,626	180,000	2,374	45名
クリスマスイベント	39,834	40,000	166	20名
秋のバス旅行	146,713	0	-146,713	
春を呼ぶ会	138,746	140,000	1,254	40名
2 事業予備費(創立20周年、日独交流150周年)	0	100,000	100,000	
3 事務管理費				
通信費	38,570	40,000	1,430	
事務消耗品費	41,497	50,000	8,503	
年次総会関連費	20,120	20,000	-120	
手数料(会費振込料他)	14,650	15,000	350	
渉外費	0	0		
当期支出合計(C)	1,473,596	1,453,000	210,598	
当期収支差額(A)-(C)	80,513	109,550	129,037	
次期繰越収支差額(A+B)-(C)	2,642,748	2,752,298	209,550	

単位 円

香川日独協会会報 第16号

2011年5月発行

発行：香川日独協会事務局
Japanisch-Deutsche Gesellschaft KAGAWA
〒762-0031 香川県坂出市文京町1-2-1
医療法人 武部歯科医院気付
Tel：0877-46-1800 Fax：0877-44-2888
Mail：info@jdg-kagawa.org
URL：http://jdg-kagawa.org
発行責任者：武部 裕光（会長）
編集：武部 裕光
印刷：(株)成光社



日独交流150周年
Jahre Freundschaft
Deutschland-Japan

日独交流150周年記念 ドイツと江戸の風景展

香川県立東山魁夷せとうち美術館 6月10日—7月13日

東山魁夷にとって、1933年から2年間の留学生生活を過ごしたドイツは、第二の故郷というべき特別な国です。本年は1861年にドイツ（当時プロイセン）と日本の間で修好通商条約が締結されてから150年目にあたります。2階展示室では、1860年に来航したオイレンブルク伯爵率いるプロイセン東アジア遠征隊の一員、ドイツ人画家ベルクが描いた当時の江戸の風景をご紹介します。



オイレンブルク遠征図録「江戸 日本橋」